

## 高等部学部懇談会

日時 令和3年4月24日(土) 11:00~11:20  
場所 本校体育館

学習参観、PTA総会、後援会総会が開かれた機会に、短い時間でしたが、高等部学部懇談会を行いました。進路指導部では、情報提供しました。以下はその内容です。

「令和3年度進路指導計画」と「卒業後のよりよい社会生活を送るためにご家庭で協力していただきたいこと」

### ○「令和3年度進路指導計画について」

- ・昨年度は、コロナ禍の中で8月までの行事のほとんどが中止になった。今年度は、県独自の警戒レベルがステージ2に引き上げられているが、現時点では、計画の通り行う予定。

### ○「就業体験について」

就業体験期間は、高等部3年生は5/31(月)~6/18(金)の15日間、高等部2年生は、6/7(月)~6/18(金)、11/8(月)~11/19(金)それぞれ10日間、1年生は11/8(月)~11/12(金)の5日間を予定している。

- ・就業体験先は、本人、保護者の方の希望、居住地から通いやすいところなどを考慮し、就業体験の受け入れ可能な事業所を開拓している。事業所が平日休業の場合は、学校に登校し、作業学習などを行い、校内就業体験という形をとっている。
- ・1, 2年生の就業体験では、いろいろな業種を体験し、働くための態度や姿勢、本人の適正などを事業所から評価してもらう。
- ・3年生は、1, 2年次の体験を踏まえて、就労を前提とした体験になる。事業所からの評価によっては、9月以降に見極めの就業体験を実施することもある。

### ○「生活体験について」

- ・3年生は、5/31~6/18の期間、2年生は11/8~11/19の期間に、1~3か所、それぞれ1日間から3日間程度実施している。放課後等デイサービスでふだんから利用している事業所でも、食事や日中活動の様子、支援方法などを共通理解するために、希望があれば実施している。

### ○「就労に関する進路研修会」

- ・中小企業家同友会主催の企業見学・体験、富山労働局主催の特別支援学校就労支援セミナーが予定されている。参加は任意だが、社会自立、職業自立に向けた研修会である。日時が近くなれば、案内プリントを配布する。

### ○「アフターケアについて」

- ・卒業後、3年間は卒業生のアフターケアを行っている。前年度卒業生については、電話での状況確認や事業所への訪問、卒業2年目、3年目の生徒については、電話での状況確認、場合によっては、訪問して支援している。また、富山障害者就業・生活支援センターなどの関係機関とも連携している。

○「卒業後のよりよい社会生活を送るためにご家庭で協力して頂きたいこと」について  
・学校では、ワークトレーニングや作業学習、専門教科を中心に、社会自立、職業自立の意識を高める取組を授業で進めているが、就労を意識した、働くための準備として家庭でも実践していただきたいことを、以下に5点示す。

①基本的な生活習慣の確立

「身の回りの自立、自分のことは自分です」ということ。着替えや身だしなみを整えること、洗顔、歯磨きなどは、多少時間がかかっても本人が一人でできることで、自発性が生まれ、生活リズムの形成にもなる。朝起きてから、家を出るまでの時間を十分にとって、本人のペースを尊重しながら根気よく繰り返すことが大切である。

②家事へ参加し、家庭での役割を果たすこと

家庭での役割を決め、最初から最後までやり遂げる。はじめは、完全にできなくても、「手伝ってくれて助かった」「ありがとう」という言葉を伝えることで、役割を果たそうとし、達成感、責任感、持続力を養うことになる。

③働くことに耐えることができる体力作り

事業所からは、「体力はありますか」「立ち仕事はできますか」とよく聞かれる。3食をきちんと食べ、睡眠、適度な運動を心掛け、規則正しい生活を送ることは、健康管理には不可欠である。休まないで通勤することは、企業が求める人物像の大前提である。

④「待つこと」や「我慢する」ことを学ぶ機会を作ること

事業所には、一定のルールや約束事を守らなければ、就労することはできない。駄々をこねたり、大声を出したり、自分勝手なやり方で物事に取り組んだりすることは、一緒に働いている周りの人に迷惑をかけることになる。自分の感情をコントロールすることができる機会を日常の中で作るように心掛ける。

⑤言葉で表現すること、コミュニケーションをとること

挨拶、返事、報告、連絡、相談は、日常生活で行っていれば、意識しなくても自然とできることである。事業所の方からは、「挨拶ができない」「返事ができない」「分からなくても”はい”と返事をする」「分からないことを質問せず、自分勝手な判断で行動する」といった苦情を聞くことがよくある。ふだんから会話を通して、それぞれの思いや考えを聞くとともに、場に応じた言葉遣いや、自分の気持ちを伝える機会をもつようにする。

指示されたことだけを行う、指示があるまで動けない指示待ちの態度も改善されるはずである。

以上5点については、学校でも教育活動全体を通じて、意識して指導しているが、ご家庭での協力が必要である。生徒一人一人が、よりよい進路選択をできるよう支援していきたいと思っている。